

稲グリ新聞

〈発行〉
早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ
〈編集〉
加藤 晴 生 郎 豊
原 信 二
佐々木 了
石 川
〒192-12武蔵村山市大南
2-26-12 頼原信二郎方
TEL (0425) 65-1839
(毎月1回発行)定価100円

ソビエト 演奏旅行

旅行説明会、三月二十五日(日)

同行者も是非ご参加を

ソ連演奏旅行・担当マネ 安齋 真治(四七)

二月十七日にモスクワの演奏会場が決まって、演奏旅行全体の枠組みが整いました。参加の皆様にはどうぞ手落ちの無いようご準備をお願いします。

① 以下、ご案内いたします。
MOソリストへの査証(ビザ)申請書送付締切

② 三月二十日(火)担当藤原氏宛「旅行説明会」同行者もどうぞ三月二十五日(日)午後一時~二時 学生の家(JR大久保駅歩五分) (二時からロシア民謡の練習、六時から堀袋輔デビューコン)

③ M O ソ リ ス ト による「旅行説明会」同行者もどうぞ

④ 現地でのパーティー費用等を含んだ旅行予算(稲グリへの払込み分)は四十万円です。前納分を除いた残金の稲グリ会計への支払は、

⑤ 四月六日までに成田周辺に宿泊される方は各自早めに手配して下さい。当日の集合は午前八時から十一時の間の予定です。

⑥ 演奏会プログラムを男性を中心に各自四十部から五十部ほど分担して持っていたることに上

稲グリ 練習日程 (平成2年)

3月13日(火)	東混練習場	18:30~21:00	阿波
■強化練習			
17日(土)	奉仕園(小)	15:00~21:00	阿波、D7(堀)
18日(日)	学生の家	12:00~17:00	" "
20日(火)	東混練習場	18:30~21:00	ヒットアルバム
25日(日)	学生の家	14:00~17:00	ロシア民謡
27日(火)	東混練習場	18:30~21:00	阿波
4月1日(日)	プレイス24	14:00~17:00	ヒットアルバム
3日(火)	東混練習場	18:30~21:00	阿波
■強化練習			
7日(土)	奉仕園(小)	15:00~21:00	(堀)
8日(日)	学生の家	12:30~17:30	"
10日(火)	東混練習場	18:30~21:00	
14日(土)	臨時練習(予定)		
15日(日)	奉仕園(大)	14:00~18:00	(堀)
演奏会形式ゲネプロ ソ連演奏旅行「結団会」			
17日(火)	東混練習場	18:30~21:00	
21日(土)	奉仕園(小)	17:00~21:00	(堀)
24日(火)	東混練習場	18:30~21:00	

《ソ連演奏旅行》

29日(日)	新東京国際空港(成田)
集合時間 8:00~11:00の間(後日確定)	
30日(月)	モスクワ公演(マチネのため午前中から練習)
モスクワ音楽院大ホール・コンセルバトリー	
23:45 発 列車にてレニングラードへ	
5月2日(水)	レニングラード公演 夜
レニングラード・フィルハーモニーホール	
6日(日)	帰国



モスクワ音楽院大ホール前の伊東一郎先生御近影(2月17日加藤幹事長撮影)
↓3月3日付読売新聞朝刊(武藤辰彦さん(44)の世話)

早稲田大学グリーンクラブのOBで組織し、社会人の男声合唱団ではトップの力を持つ稲門グリーンクラブ(福井忠雄会長、会員約千人)が、四月末からソ連で演奏旅行を行う。日本のアマチュア男声合唱団が、ソ連で本格的なコンサートを開くのは初めて。

稲門グリーンクラブ

歌声訪ソ

一日までに正式に決まったスケジュールによると、コンサートは全ソビエト音楽協会主催の形で、四月三十日にモスクワのモスクワ音楽院大ホールと、五月二日にレニングラードのフィリハーモニーホールで開く。それぞれ、地元一流合唱団が共演する。

ソ連演奏旅行 「ステージプログラム」

- I ロシア民謡
 1. いわお
 2. けわしい丘の上
 3. コサックの子守唄
 4. 小川に沿って (計15分)
 - II 稲グリ愛唱歌「ヒットアルバム」
 1. 秋のピエロ
 2. ふるさと
 3. 青葉城恋唄
 4. アカシアの径
 5. Soon Ah will Be Done
 6. HAIL MARY
 7. 音戸の舟唄
 8. 最上川舟唄 (計25分)

《休憩=15分》
 - III 現地合唱団 (計25分)

*合同演奏 ともしび(ロシア語)
遙かな友に(日本語)
 - IV 組曲「阿波」 (計18分) (アンコール)
- (総計約2時間)

出席記録

	2/13	18	20	25	27	3/6	10
T ₁	11	13	10	9	12	12	13
T ₂	12	13	10	8	13	8	9
B ₁	11	12	7	10	10	9	16
B ₂	16	15	14	12	17	12	16
	50	53	41	39	52	41	54

あなたの銀行口座、大丈夫ですか

平成二年度OB会・会費の自動引落し日迫る

三月二十七日(火)を忘れないで!

昨年十二月三日の早大グリーOB会・稲グリ「総会」で平成二年度からのOB会会費値上げ案が承認され、年額、A会員二万円、B会員五千円になりました。今年度の銀行からの自動引落しは、三月二十七日に行われます。毎年このとどろが、会員の銀行口座残高不足のため、五十件近い口座が引落し不能になっています。今年度は必ず前日の三月二十六日(月)迄に銀行口座に入金しておいて下さい。二十七日(火)当日に入金しても間に合いません。おそれがあるの、十分注意して下さい。また、転居等で銀行口座の解約、変更ができましたら、至急年度幹事又は石原まで連絡をお願いします。自動引落しの登録をしていない人は、練習場で納入いただくか、銀行振込、郵便振替口座で納入して下さい。また、同期会等を開く際、幹事の方は、会費の納入、愛唱歌集、OB会名簿の販売にも是非取り組んで下さい。お願いします。

90稲グリ・ソビエト演奏旅行参加メンバー

総勢109名	指揮者 堀俊輔	ピアニスト 7名	小林者 3名	万里子 5名	子名 5名
《T I》	《T II》	《B I》	《B II》		
石原(35)	津田(22)	渡邊(16)	加納(24)		
坂本(35)	中野(27)	崎本(27)	榎木(26)		
坂本(35)	福井(29)	山本(27)	大倉(27)		
長沢(36)	井部(29)	志賀(29)	永杉(28)		
藤田(36)	阿部(30)	徳田(31)	森(29)		
奈良原(36)	宇野(32)	草間(33)	岩瀬(32)		
堀内(37)	飯澤(32)	木永(35)	宮地(35)		
小俣(38)	耕納(37)	永(35)	浦野(36)		
清水(38)	関口(37)	鹿(38)	中村(36)		
福田(38)	藤沼(38)	岡(38)	杉浦(37)		
原(42)	池野(39)	越(39)	横尾(37)		
佐々木(42)	井上(40)	吉田(42)	西川(38)		
関(44)	加山(15名)	西(43)	榎本(38)		
安斎(47)	山本(57)	今(47)	古殿(38)		
安橋(50)	(15名)	星(47)	清水(40)		
安宅(57)		川(56)	大泊(40)		
石川(61)		岩(58)	篠部(57)		
四宮(H2)		井(H2)	阿佐(20名)		
(18名)	井沢夫人				
	二瓶				
	(VTRカメラ)				

3月11日現在

ソ連演奏旅行まであと四十日余りとなりました。会計の私が言うのもどうかと思いますが、練習への出席状態がよくありません。海部首相、西原早大総長のメッセージをいただき、国際交流基金、三井物産、その他からの援助、演奏会場、共演合唱団をみても、大変な規模の演奏旅行になってきました。あとは、我々の演奏の中味だけてです。今後はモスクワ、レニングラードの演奏会を成功させることを第一に考えて下さい。

ホリヤン、デビュー(三月二十五日)目前

二月十八日の「阿波」の練習で久しぶりに稲グリを振り、その指揮を全く無視した歌いっぷりに「デビュー」直前の指揮者の自信を失わせんとて、堀俊輔氏(五〇)とメンバーを笑わせ左は二月十七日の毎日新聞朝刊か

ら。また「音楽の友」の三月号でも「四十歳を目前にデビューする大器晩成の指揮者」としてとり上げられた。当日は六時半開演。チケットは残りわずか。遠藤後援会事務局長(042-271-4513)に電話(03-336-1676)で



堀俊輔さん

土木作業員も経験した
遅咲きの指揮者
堀俊輔さん
大阪生まれ。早大英文科卒業後、東京芸大卒。指揮者佐藤功太郎氏ら、作曲を尾高厚忠氏に師事。東京交響楽団副指揮者。39歳。



三月二十五日に東京・渋谷のオーチャードホールで、東京交響楽団を指揮し、デビューする。あと四月で四十歳。いかに遅咲きである。エリートなら大卒卒業後すぐに、あるいは欧米留学中のコンクール入賞などを勲章に派手に登場するものに、三十歳をはるかに超えてから研究生、副指揮者という下積みに耐えて、晴れて一人前というのだから、現代では、やはり珍しい。

「大阪でおこしの製造、販売をするお菓子屋に生まれたんですが、十一歳の時に父が死んで、家は母の手で継がれていました。」

でも、やがて倒産。早稲田大学を卒業後は食いつなぐために奔走しなければならなかったのです。で、税務処理のために法律事務所を勉強したり、日々の生活費を稼ぐために土木現場で三十歳のセメント袋をかき上げたり。「朝八時から深夜まで働きましたが、その割に生活の充実感がない。こんなことではたまたま一回の生涯が燃焼せずに終わってしまうと思ひ、二十七歳で改めて東京芸大作曲科に入り、さらに指揮科に転向したのです。」

コンサートの曲目はチャイコフスキーの交響曲6番「悲愴」をメインに盛りだくさん。そして今後の抱負は「僕を使えば、それこそトラがもうかると言われる指揮者になりたい」。同年配の同業者がすでに確固たる地位を占めているところへ、遅ればせの切り込み。不安は? 「全然……。要するに実力が直接評価される世界ですから」

感謝!

「ロシア民謡」のバリトンソロは、前回の定期演奏会の時は岡村さん(二九)が歌われましたが、今回の演奏旅行ではメンバーからソリストを出すことになり、富永さん(三五)が抜擢されました。ところが、メンバー用の楽譜にはソロの歌詞に振り仮名がないため、既に現地に渡っている伊東助教(四七)以外で、どなたかに至急お願いできないかということになり、同じ早大文学部露文の教授・井桁真義氏にお話を伺っていただいたところ、「そのことでしたら伊東先生に聞いています」ところよいご返事。入試や学年末のお忙しい中、バリトンソロの歌詞全てに振り仮名をつけてくださったのでした。

結局歌うのは「いわお」のみになりましたが、井桁先生のご協力をここに報告し、謝意を表します。(訪ソ幹事団)

おくことです。ソ連で恥をかかないため、みんなの足を引っ張らないためにも、残りの練習に全力を挙げて参加し、自宅練習を實行しようではありませんか!

稲グリ銀行口座
三菱銀行日本橋支店
稲門グリークラブ
石原祥弘(よしひろ)
普通 No.四六一三九五四
郵便振替口座
東京 九一三三四五八二
稲門グリークラブ
(京橋通り郵便局)

なお、自動引落しを利用してない会員の方は、この機会に是非手続きをお願いします

以上

OB会新名簿訂正のお知らせ

名簿担当幹事 玉崎洋一(27)

昨年12月発行のOB会の新名簿について、会員から次のような訂正の申出がありましたのでお知らせします。(訂正箇所:アンダーライン部)

2402 B 2	加納 敬 A (海外勤務)	411 HOBRON LANE #2406 HONOLULU, HI 96815 U.S.A.	808-944-9991
3219 T 1	高橋生久 A	160 新宿区愛住町19虹ビル401	プレステージ プロダクツ 03-294-2571
3220 B 2	武田元次郎 A	247 横浜市栄区本郷台5-35-7	鶴見大学文学部 045-581-1001
3505 B 1	茨木泰隆 A	359 所沢市下富1140-6	エスティ ローダー(株) 03-475-1280
3602 B 2	井澤良雄 A	152 目黒区碑文谷3-9-14	住友電工システム企画 03-423-5263 推進部
4211 B 2	清水孝彦 B	171 豊島区南長崎5-2-17	日産火災海上保険(株)神奈川 0462-21-1984 損害調査課
4222 T 1	星 直吉 A	989 仙台市青葉区下愛子 -31 022-392-4043 滝ノ瀬1-28	藤藤崎 022-261-5111
4311 T 1	佐野州範 A	280 千葉市千城台北1-22-6	機トモク岩掘工場 0487-94-9121
4326 T 2	水野輝夫 A	221 横浜市神奈川区片倉1-17 -37-203	機ヤマハスポーツシステム 045-201-4170
4605 B 1	稲田 優 B	179 練馬区水川台2-7-27 03-5398-4341 -306	機日産自動車販売企画部 03-543-5523
4702 T 1	安斎真治 A (年度幹事)	152 目黒区柿ノ木坂2-1-20 03-718-2836 -602	財・ヤマハ音楽振興会 03-719-3116 東京本部
4832 B 1	山手一容 A	250 小田原市寿町5-14-21 0465-35-3365 -202	富士写真フィルム(株) 0465-32-2052 小田原工場
5308 B 2	柿沼 郭 A	467 名古屋市中区瑞穂区田辺通2-1 052-834-9888 NHK A33	NHK名古屋放送局 052-951-3551
5313 T 1	重政伸一 A	350 埼玉県入間郡日高町武蔵台 -12 0429-82-3718 3-4-7	日本たばこ産業(株) 03-582-3111 海外原料課
5327 B 1	吉原淑之 A	206 稲城市押立1290GH棟本203 0423-78-4085	キヤノン映像事務機器 03-758-2111 開発センター
5517 T 2	田村嘉章 A	146 大田区南久が原2-1-6 03-751-7355 -501	東京証券取引所総務部 03-665-1212 文書課
5519 B 2	仲村弘之 B	814 福岡市早良区原1-6-25 -01 092-851-3543 -202	東京海上火災保険(株) 092-281-7173 九州支店

なおこのほか次の12名あての稲グリ新聞が転居先不明等で返送されてきました。お心当りの方はご連絡下さい。判明次第本紙に訂正住所を掲載します。

- 3206稲田 弘, 4517竹田禎久(留守宅), 4618森 輝夫, 4619山岸敏夫,
- 4912佐久間裕一(留守宅), 5406大部孝広, 5421板東 功, 6014為本吉彦,
- 6231渡辺 浩, 6304川崎辰哉, 6308鈴木英次, 6318依田貴則

おい、キミもモスクワに行くよな？

《平成二年卒新OB歓迎会》

現役担当マネ 佐々木 豊(五九)

四月以降では新OBの諸君も新人研修で忙しかったり、はたまた東京近辺にいなかつたりで集まりにくく、ソ連演奏旅行との関係もあろうし、それならば今ということであるので、三月六日の練習後に庄や四ッ谷三丁目店にて「平成二年卒新OB歓迎会」が開催された。

当日は、練習を八時半に終え会場にかけつけるはずが、連絡事項も多練習散会が遅れたので、定刻以前に会場入りして新OB諸君は、稲グリメン到着までじっと我慢の子であつた(古い!)。それにしても彼らが「社会人は時間にルーズだ」という誤った印象を持たねばよいが。

新OBは吾郷洋一郎君、笠原慎太郎君、四宮昭彦君、塚田清治君、古谷広樹君、松井修平君といった顔ぶれで総勢二十一人中六人の参加。たや稲グリも練習時から比べると参加者が多いとは言えず、幹事として情宣不足を猛省するばかりであつた。

開宴の挨拶の中で志賀副会長(二九)が「卒業おめでとう」とやつたので、ひよっとしたら卒業ではない人もいるのでは、と氣を揉んだが、たまたま前述の六人は、松井君が大学院に進学するほかは皆大手に就職を決めた様子。「鶏口となるも牛後となるなかれ」という言葉があるが、願わくは「牛口」になるように頑張らう。

NHKテレビがやってくる!!

三月十七日か十八日、稲グリ練習を取材、日本テレビも近々取材を予定

アマチュア男声合唱団のソ連演奏旅行というビッグイベントを取材しようとするNHKテレビが三月十七日(土)か十八日(日)かに練習

ってほしいものだ。宴会の方は新OBの自己紹介の後、もっぱら差しつ差されつでのお喋りであつたが、それだけで十分に楽しい。「僕は名古屋、こいつは神戸の方へ行くことになりそうなので稲グリ活動はちよつと……」何を言ってるんだ、大阪稲グリも名古屋稲グリもあるんだよ。「ゲッ、そんなのあるんですか!」などというやりとりや、加藤幹事長(三七)の長

沢指揮者(三六)らの「キミも是非モスクワへ」のラブコールに新OBが群舞する場面は稲グリならではの、ただ一つ驚いたのは、彼らが「いざ起て戦人よ」を歌えないこと。愛憎曲が変わりつつあるのか? もつとも、稲グリメンは新OBが歌えるか否かに関係なく「ライド・ザ・チャリオット」「レイロロード」「シックスペンス」などを歌いまくり、歓迎の辞に代えたのであつた。

材を予定している模様(読売新聞・武藤さん(四四)談)で、メンバーとしては「もうそんな人はいないハズだが……」練習はサボれない。奮ってのご出席を!

桜楓合唱団

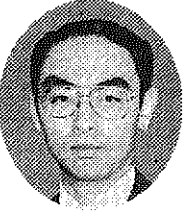
「二十五周年記念誌」発行に着手

昨平成元年で結成二十五周年を迎えた桜楓合唱団(会長桜井瑞子)がこれを記念して「二十五周年記念誌」を刊行する。稲グリにも原稿執筆の依頼があり、稲門グリークラブとして稲井会長がお祝いの言葉を書いています。その他、三、四人の稲グリメンが執筆を依頼されており、発行が楽しみである。いつもながら精力的な桜楓合唱団の益々のご発展を祈りたい。



と感づかた。●豪州国歌 人間くさい国にいな

「日本のビジネスマンは、商売ばかりではない。音楽、芸術を愛するものもある」と、昨年メルボルンで自費合同音楽会を開いた慶応義塾大学グレンサイエティの指揮者、藤森数彦さん(写真)が



人像を抱いているのに気付かず、コーラス仲間と家族が自費で改めて出かけた。「豪州国歌の替え歌をやらせたら大入り。人間くさい国だった」昭和五十五年卒だが「八十四歳の先輩も出演する。平均年齢はワグネル出身のダークタクス並みだが、ノドはたしか」。こどもも豪州遠征の旅をする。

2月16日付・朝日新聞夕刊 藤森さん(55)には稲グリ今年初め現地で宣伝してもらったなどお世話になっている。

結婚披露宴を盛り上げよう

三月二十一日(祝)有志募る

稲グリの水戸黄門こと山本茂男さん(二七)のお嬢さんが三月二十一日午後六時から九段のグラウンドパレスで結婚披露宴を開きます。時間の都合のつくメンバーには披露宴でのコーラスプレゼントにご参加いただくようお願いいたします。ご連絡は、頼原(四二)又は津田(二二)まで。

- *集合 午後六時 現地控室
- *服装 稲グリユニフォーム
- *曲目 いざたて他三曲程



爆笑の別れはワセグリらしかった

《第二十九回 早稲田大学グリークラブ送別演奏会》

TGS特派員 T・P記

「平成二年の二月二十二日なんです。二つくしなんですよ、エヘヘ」とさほどおかしくもない話に、彼独特の笑いをつけてOB担当マネの土岡君(新四年)が宣伝した。早稲田グリー(新四年)が宣伝した。会場は三年連続して池袋の豊島公会堂。二つくしと言っても、さすがに開演時刻は二時二十二分のわけは六時。天候に恵まれたためか、あるいは福永陽一郎先生なきあとのワセグリを心配して多くの人がかけつけたのか、おそらくここ三年で一番の入り。福永先生夫人や上田稔会長(母校教育学部教授)のお姿も見える。

第一ステージの新OB・現役合同の愛唱歌集の後を受けての第二ステージは、新OBのみのステージ。今年には当然のことながら「福永先生との思い出の名曲集」となる。思いの丈を込めたこのステージは正指揮者の高橋弘行君ばかりではなく、他の諸君も個性あふれる指揮ぶりを披露し爆笑をさらう。中でも、このところ毎年聞かされているプロードウエイミュージカルのナンバー「オクラホマ」は、アナキーなロッカール(？)小泉明君の目茶苦茶な指揮に

断舌記

その二 坪井秀夫(二八)

三年程前人跡稀な山奥の谷川の傍で一人で幕営したことがある。月もない真つ暗な夜だったが焚火をしながら谷川の冷たい水でのウイスキーは実に旨かった。気持ちよく休んだが夜半に酔い覚めとともに目が醒めた。色々な音が聞こえてくる。せせらぎ、葉のこすれあい、枝の折れる音。するとこの深夜に人の足音が近付いてくる。微かに、しかし確実に近付いてくる。落葉を踏む音、枯れ枝を踏み折る音。こんな真夜中に人が歩くはずがない。テントの中で小さなナイフを握りしめた。自分の心臓の鼓動が聞こえる。どんどん近付いてくる。ところが何となく、すーっと音が消えた。しばらく身じろぎもせずじっとしていたがそれ

つきり消えた。この時見えないものの恐ろしさを知った。

この点、舌癌は自分の目で見るだけ少しは不気味さが少ないかもしれない。何しろ鏡で舌の裏側を見ると腫瘍が見えるのだ。これが自分の細胞の一部かと思うと多少の親しみを覚えてもよさそうなものだがなんとも憎い。じっと見ていると5本の指でひっ掴んでむしり取り、地面に叩きつけて、靴の底で踏みじりたいたい。どうして俺に、こんな所に、こんなものが巣くつたのか。それでもこいつはガンとして動かない。

(治療開始)

暮れも十二月三十日になって医者には「これから六日間二十四時間ぶっ続けで皮下注射をします。そ

もかかわらず奇跡的なまとまりを見せ、視覚的聴覚的に楽しめた。

第三ステージも新OBのみのステージ。ここ十年くらい送別演奏会を振り返ってみると、新OBのステージ二つのうち一つは女子大の新OBの賛助を得ての混声ステージがしばらく続き、その後福永先生が指揮するステージへと変わっていった経緯があるが、今年は何となく、部長の佐藤毅君を中心に構想を練ったという寸劇！これはもう、彼らの合宿での演奏会そのままのノリで聴衆(観衆?)もびっくり。新OBのもう一つの顔、いや本当の顔を見たい思いがした。勿論、このような遊びが嫌いな人もいるかも知れないが、ほかならぬ福永先生はワセグリの演奏会はお好きで、筆者などもよく頭を抱えて(おなかではなく)

れが終わったならそのまま三十六時間連続で静脈点滴注射をします」という。抗癌剤らしい。なんのことはない暮れから新年五日まで体に注射針をぶら下げたまままで過ごした。これが終わって二週間ばかり薬の効果を見る。自分でも判るほど顕著な効果で、大分腫瘍が小さくなった。それで一月二十日くらいもう一度同じ注射をされた。舌の腫れがすっかり引いてもう治つたのではないかと思うほどだ。だが騙されてはいけない。薬で治つた癌はないのだ。

(手術)

手術日が決まった。二月十三日入院して既に五十日経っている。あさ八時三十分病室を出て、戻つたのが午後六時三十分。十時間かかった。もっとも全身麻酔なのでこの間は全く覚えがない。しかしただただだんだんかかった。死んだほうがましと思うほどしんどかった。その後一週間はニユートロンが十人ぐらいぶら下っているの

笑っておられた先生を思い出す。たまにはこういうステージもよいのではないか?

第四ステージは、三善晃の「クレイの絵本」を鎌田浩二君指揮の新生ワセグリの演奏。鎌田君は事前に作詩の詩人・谷川俊太郎氏に会える機会にも恵まれたとかで、その成果たるや楽しみであったが、果して「福永先生も新OBの皆さんもあとのことはご心配なく、僕達に任せてください」と言わんばかりの熱演。粗削りではあるが今後が期待できると確信した次第。

なお、この日は岡村喬生氏(二九)のコンサートもあつたため、稲グリから新OBへの花束贈呈は現役担当マネの佐々木豊氏(五九)が務めた。二十代のOBからの贈呈というのも、ことによると史上初かも知れない。

はないかと思う程体が重かった。

この手術は簡単なものではない。舌の三分の二、四分の三を切るだけなら簡単らしいが切つた後補填しておかなければ今後の生活が難しい。補填する肉は血管のついた生きて肉でなければならず、肩甲骨の下辺りから切つた肉を舌のところにまで皮膚を切り開いて持ち上げていく。血管付きの肉でないと縫合しても腐ってしまうらしい。それでもこの肉片はドテツと居座っているだけで、昔の舌のように微妙な動きは全くできない。それで食物を噛むことができず、呑み込むことも難しい。また言葉も不明瞭で、特に子音のTとKの発音ができない。これは今まで歌を歌い続けてきた者にとつて最大の侮辱だ。この侮辱に死ぬまで耐えなければならぬ。この抑鬱たるや諸兄の想像外で、この小生を嘲り笑つたがために今までに三人の方が非業の死を遂げられたことを警告しておく次第。(つづく)

編集後記

今回の記事の中には、毎年掲載してきた新OBの部長の挨拶が抜けてしまっていた。「何か忘れていた」と思っていたので、編集局長に指摘された時は既に手遅れで、東宝に就職が決まった佐藤毅前部長は自動車免許取得の合宿へと旅立ってしまった。画龍点睛を欠くとは正にこのこと。次号で遅れ馳せながら掲載させていただきます。

徐々に皆さんの目がソ連に集中していくことになると思います。四年前に台湾に行けなかつた私も今回は訪ソメンバーのはしくれとなりまして、今回訪ソに参加されたい方、この場をお借りして是非お願いしておきたいことがあります。それは四月三十日(月)にオーチャードホール、翌五月一日(火)に東京文化会館で開催される現役の東京六連をいずれかの日にお聴きいただきたいという事です。ワセグリは福永先生とともに計画していたヴェルディのオペラによる男声合唱曲集を、実に十一年ぶりに六連を学生が指揮という形で演奏することに決めました。彼らの大切なステージを見守っていただきたいのです。まだ少し先ですが今から手帳に書き込んでおいていただくと幸甚です。(以上S)

稲グリ新聞次号第七十四号は、ソ連演奏旅行出発直前号になります。超多忙の中の発行となりまますので、原稿の集まり具合が勝負です。執筆を依頼された方は締切厳守を。S編集子共々伏してお願いいたします。

まだまだ何となくソ連演奏旅行の实感が湧いてきません。しかし、日にちだけは確実に迫ってきます。エライコソチャの今日この頃ですネ。(以上E)